

問1 15世紀に発生した応仁の乱以降、室町幕府の権威が衰退したことで、家臣が主君を倒したり、地方の武士が守護大名を追放したりして実権を握る事例が全国で見られるようになりました。このように、実力のある者が上の身分の者の地位を奪う社会的な風潮を何と呼びますか。 (2018年 鹿児島県公立入試 類似)

1. 下剋上 2. 尊王攘夷 3. 一揆 4. 版籍奉還

問2 戦国大名が定めた「分国法」に見られる特徴や目的を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2024年 岡山公立入試 類似)

1. 領国内での私的な争いを禁止し、大名による裁判権を確立しようとした
2. 江戸幕府が諸大名を統制し、勝手に城を修理することを禁じようとした
3. 鎌倉幕府が御家人たちの土地争いを公平に解決するために制定した
4. 天皇や公家の行動を厳しく制限し、政治に関与させないようにした

問3 戦国大名が定めた法律の内容に多く見られる、「家臣同士が私的な争いを起こした場合、その理由の正当性を問わず、双方とも処罰する」という原則を何と呼びますか。 (2020年 佐賀公立入試 類似)

1. 喧嘩両成敗 2. 連座（縁座） 3. 目目安箱 4. 奉公と恩賞

問4 ヨーロッパからアジアへ向かう海上航路において、アフリカ大陸の南端に位置し、中継地点として重要な役割を果たした場所の名称として正しいものはどれですか。 (2020年 新潟県公立入試 類似)

1. 喜望峰 2. マゼラン海峡 3. パナマ運河 4. スエズ運河

問5 1549年にフランシスコ・ザビエルが鹿児島に上陸して日本に伝えたキリスト教について、その宗派と布教を担った組織の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2017年 徳島公立入試 類似)

1. カトリックーイエズス会 2. カトリックー十字軍 3. プロテスタントーイエズス会 4. プロテスタントー清教徒（ピューリタン）

問6 戦国時代において、各地の戦国大名が自らの領国内を統治し、家臣や民衆を統制するために独自に制定した法律を何というか。 (2021年 沖縄公立入試 類似)

1. 御成敗式目 2. 分国法 3. 公事方御定書 4. 武家諸法度

問7 応仁の乱ののち、各地に登場した戦国大名が、自らの領内の武士や農民の行動を厳しく取り締まり、領地の安定と統治を強めるために独自に制定した法律を何といいますか。 (2016年 群馬県公立入試 類似)

1. 御成敗式目 2. 分国法 3. 武家諸法度 4. 公事方御定書

問8 室町幕府の支配力が弱まる中で発生した、加賀国（現在の石川県）において浄土真宗の門徒らが守護大名を倒し、その後約100年にわたって農民らによる自治を行った出来事はどれですか。 (2018年 静岡公立入試 類似)

1. 加賀の一向一揆 2. 山城の国一揆 3. 正長の土一揆 4. 島原・天草一揆

問9 将軍のあとつぎ問題などを原因として1467年に発生し、約11年間にわたって続いた戦乱は、幕府の力を決定的に弱め、社会全体に「下剋上」の風潮を広める大きな契機となりました。この戦乱の名称を選びなさい。 (2020年 千葉県公立入試 類似)

1. 承久の乱 2. 観応の擾乱 3. 応仁の乱 4. 島原の乱

問10 戦国時代の九州において、ポルトガルやスペインとの南蛮貿易の利益を得ることを目的の一つとして、みずからキリスト教に入信し、宣教師を保護した大名を総称して何と呼びますか。 (2025年 京都公立入試 類似)

1. 守護大名 2. 戦国大名 3. キリシタン大名 4. 寄親

問11 1543年に種子島に漂着した船により、日本に初めて鉄砲が伝えられました。当時の種子島の鍛冶職人がその仕組みを学び国産化を進めたといわれる、この武器を日本に伝え、後に長崎などを拠点にキリスト教の布教を伴う貿易を行った国はどこですか。 (2016年 長野県公立入試 類似)

1. ポルトガル 2. スペイン 3. オランダ 4. イギリス

答え合わせ・解説

問1	答え 1 下剋上	室町時代の中期から戦国時代にかけて、それまでの身分秩序が崩れ、実力主義の時代へと移行したことを示す言葉です。この風潮によって、守護代や国人といった下の立場にいた者が、主君である守護大名に代わって戦国大名として台頭する動きが加速しました。背景には、幕府の統制力の低下と、土地や民衆を直接支配しようとする実力重視の価値観の広がりがあります。
問2	答え 1 領国内での私的な争いを禁止し、大名による裁判権を確立しようとした	戦国大名は領国の軍力を維持するため、家臣同士が私的な理由で喧嘩や抗争をすることを強く禁じました。代表的な規定に、理由を問わず争った両者を処罰する「喧嘩両成敗」があります。これにより、大名が絶対的な裁判権を持つことで領国支配を安定させる狙いがありました。他の選択肢は、武家諸法度（江戸時代）、御成敗式目（鎌倉時代）、禁中並公家諸法度（江戸時代）の説明です。
問3	答え 1 喧嘩両成敗	戦国大名にとって、領国内の家臣同士が私的な理由で武力衝突を起こすことは、領土の防衛力を低下させる大きなリスクでした。そのため、個別の事情に関わらず争いそのものを厳禁し、大名による一元的な裁判権を確立するためにこの原則が多くの分国法に盛り込まれました。
問4	答え 1 喜望峰	アフリカ大陸の最南端付近にあるこの地点は、ポルトガルの航海者バルトロメウ・ディアスによって到達され、のちにバスコ・ダ・ガマがここを通過してインド洋へと入り、インドへの航路を確立しました。大航海時代におけるインド航路の象徴的な中継地点です。
問5	答え 1 カトリック - イエズ会	日本に最初に伝わったキリスト教は、ローマ教皇を中心とするカトリック教会の一派である「イエズス会」によるものでした。当時、ヨーロッパでは宗教改革によって新教（プロテスタント）が勢力を伸ばしており、これに危機感を抱いた旧教（カトリック）側のイエズス会が、アジアなどへの布教を通じて信者を増やそうとしていました。
問6	答え 2 分国法	室町幕府の権威が衰退した戦国時代、各地の戦国大名は実力で領土を治める必要がありました。そこで、領国支配を安定させるために独自の法規範である分国法を制定しました。これは、大名の権力を強化し、家臣同士の私的な争いを禁じる役割を果たしました。
問7	答え 2 分国法	室町幕府の権威が衰えた戦国時代、各地の戦国大名は実力で領地を支配する必要がありました。そこで、家臣同士の私的な争いを禁じる「喧嘩両成敗」の原則などを盛り込んだ独自の法を定め、領国内の秩序を維持しようとした。鎌倉時代の御成敗式目や、江戸時代の武家諸法度とは制定された時代や目的が異なります。
問8	答え 1 加賀の一向一揆	1488年、加賀の浄土真宗（一向宗）の門徒たちが団結して守護の富樫氏を自害に追い込みました。その後、加賀は「百姓の持ちたる国」と呼ばれ、約1世紀にわたる自治が実現しました。これは幕府や守護による中央集権的な支配が崩壊しつつあったことを示す象徴的な事例です。
問9	答え 3 応仁の乱	この戦乱によって政治の中心地である京都が荒廃し、将軍や幕府の権威が失墜しました。その結果、地方の武士たちが幕府の指示を仰がずに実力で領地を奪い合うようになり、下剋上の世の中、すなわち戦国時代へと突入していきました。
問10	答え 3 キリシタン大名	九州や近畿地方の戦国大名の中には、貿易による経済的利益や、鉄砲・火薬などの軍事物資を入手するために宣教師を保護し、自らも洗礼を受ける者が現れました。このような大名はキリシタン大名と呼ばれ、代表的な人物に大友宗麟などがいます。
問11	答え 1 ポルトガル	1543年に種子島へ鉄砲を伝えたのはポルトガル人です。この出来事をきっかけに、日本国内で鉄砲の量産が始まり、戦国時代の戦術が大きく変化しました。また、ポルトガルとの貿易は「南蛮貿易」と呼ばれ、キリスト教の布教と密接に結びついていたことが特徴です。